

(9) 中国



中国地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はこのところ弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

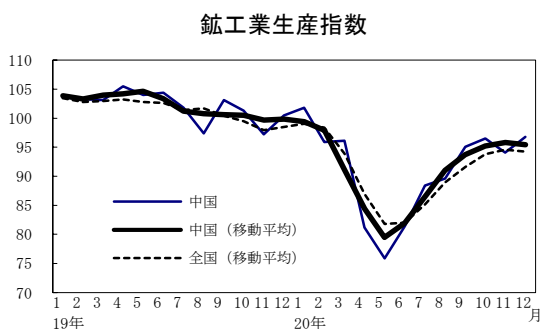
前回からの主要変更点

	前回 (令和2年12月)	今回 (令和3年3月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	↓
個人消費	持ち直している	このところ弱含んでいる	↓

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

10-12月期の鉱工業生産は、輸送機械は普通乗用車等が増加したこと、化学が増加したこと等により、前期比5.3%増となった。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7-9 月期	10-12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	23.2	107.9	13.1	10.1	▲9.8	1.6
汎用・生産用・業務用機械	13.3	▲5.4	▲0.8	▲0.4	▲5.0	▲0.3
化学	12.2	▲5.8	8.2	▲3.6	9.1	6.6
電子部品・デバイス	8.8	1.6	▲3.2	▲7.1	5.6	▲2.8
食料品・たばこ	6.8	19.1	▲6.5	▲4.3	▲10.4	11.0
鉱工業	100.0	14.5	5.3	1.5	▲2.5	2.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10-12月期、12月は速報値。

2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ弱含んでいる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

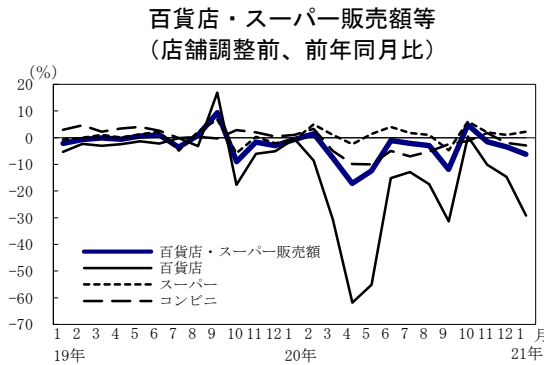
10-12月期は前期比2.4%増となった。月別にみると、10月は前月比0.9%増、11月は同0.8%減、12月は同0.3%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比0.5%減となった。月別にみると、10月は前年同月比4.8%増、11月は同1.5%減、12月は同3.4%減となった。

百貨店は、10-12月期は前年同期比9.4%減となった。

スーパーは、10-12月期は同2.8%増となった。



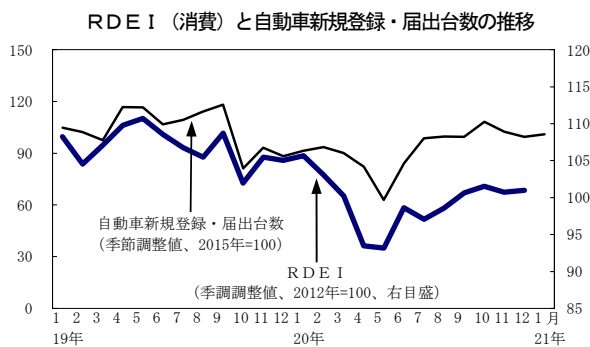
	2020年 10-12月	2020年 10月	11月	12月	2021年 1月
RDEI (消費*1)	2.4	0.9	▲0.8	0.3	—
百貨店・スーパー(*2)	▲0.5	4.8	▲1.5	▲3.4	▲6.2
百貨店(*2)	▲9.4	0.4	▲10.1	▲14.7	▲29.2
スーパー(*2)	2.8	6.1	2.0	1.0	2.3
コンビニ(*2)	▲0.5	▲1.2	1.8	▲2.0	▲2.9
乗用車(*3)	18.0	31.8	10.3	13.7	8.0
(季節調整値) (*3)	4.1	8.7	▲5.4	▲2.8	1.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

2021年1月は速報値。

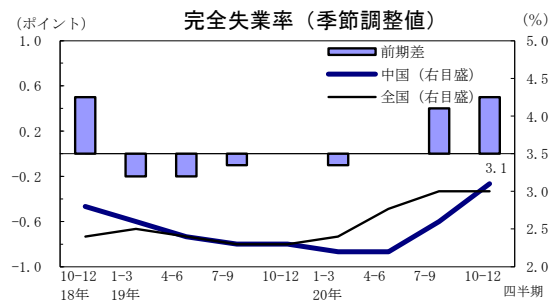
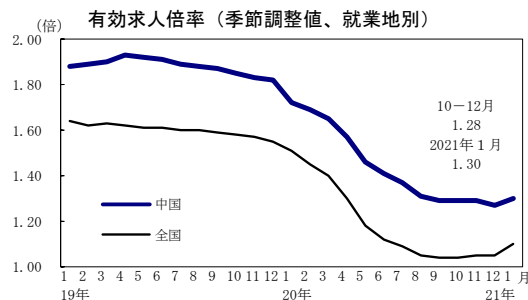
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年1月調査) 景気判断理由の概要

9. 中国

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・年末年始の天候不順と新型コロナウイルスに端を発し、悪い流れが続いている。特にディナータイムの落ち込みはひどく、来客数の確保に苦労している (一般レストラン)。
			・商店街への来客数は相変わらず少ない。客の入店を制限しているため、売上に影響が出始めている (商店街)。
		×	・緊急事態宣言の発令やGo To Travelキャンペーンの一時停止に伴い、ビジネス客や観光客のキャンセルが続出し、稼働率が低下している (都市型ホテル)。
	企業 動向 関連		・客の受注量に大きな変化はない (輸送業)。
			・8~12月まで景気は回復基調にあったが、1月に入り、新型コロナウイルスが拡大したことで、景気はやや悪くなっている (木材木製品製造業)。
雇用 関連		・受注は明らかに回復傾向にあり、景気は良くなってきている (鉄鋼業)。	
		・新型コロナウイルスの再拡大で飲食関係が壊滅的な状況になっている (求人情報誌製作会社)。	
その他の特徴 コメント			・製造業を中心に採用者数が回復してきている (人材派遣会社)。 ：新型コロナウイルスの感染拡大や大雪の影響で売上は低調である。特にGo To Travelキャンペーンの一時停止の影響で観光部門は大変厳しい状況になっている (百貨店)。 ：有効求人倍率は全国でもトップレベルであるが、低下傾向が続き、業種によって二極化が進んでいる (新聞社 [求人広告])。
先行き	家計 動向 関連		・これから暖かくなってくるので、タクシーの利用客も多少は増加するかもしれないが、景気はほとんど変わらない (タクシー運転手)。
			・店舗が繁華街にあるため、繁華街の夜のにぎわいがなくなると、景気は悪くなる (家電量販店)。
	企業 動向 関連		・受注の見通しは現状と変わりなく、引き合いがあっても2022年であり、このまま推移すれば今年の前年以上に厳しくなる。また、鉄原材料価格の高止まりも懸念している (金属製品製造業)。
			・新型コロナウイルスの影響が続くため、受注量や販売量は上向かない (広告代理店)。
	雇用 関連		・新型コロナウイルスの影響で、多くの業種の先行きが不透明なため、景気は良くならない (職業安定所)。
その他の特徴 コメント			：今後も新型コロナウイルスに対する警戒が続き、内食需要は高い水準を維持する (スーパー)。 ：例年であれば、春の花のシーズンに入り、多くの来園が見込める時期になるが、新型コロナウイルスの先行きが不透明なため、景気はやや悪くなる (テーマパーク)。

(D I) 現状・先行き判断D I (中国)の推移 (季節調整値)

